



2016年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

カンボジアスタディツアー4300kmの旅

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 会長 木下 幸子
株式会社ケイ・アール・ジー 小川 慶

2016年12月11日16時、福岡から成田の宿泊するホテルへ到着。2016年12月11日～16日にかけて、「カンボジア結核対策スタディツアー」へ、8名の方々と参加致しました。同日18時、同行される方々と合流し、団結式と旅程、スタディツアーの趣旨等の打合せを行いました。今回の旅では、今までの会の活動が評価され、保健大臣との表敬訪問が叶うという事で、緊張と誇らしさを胸に抱きながらの旅となりました。

12日、2016年9月1日より開設したばかりの成田・プノンペン間の直行便にて4300km離れたカンボジアへ旅立ちました。プノンペンは、乾季にも関わらず、あいにくの悪天候でしたが、その分気温も低く、過ごしやすい旅となりました。

—縫製工場訪問—

13日、最初の訪問先はマカロットの縫製工場で、従業員数1300名余、日本でも有名なGAP等のスポーツウェア類を中心に中国や台湾へ輸出しており、今後は日本への輸出も検討しているそうです。工場内は見事な分業体制に加え、縫製ラインでは競争を促すため各列の現在の製造成績が確認出来る様になっており、トヨタ方式の仕組みがとられていました。ただ、所狭しと席が配置される姿は圧巻でしたが、反面、糸くずや埃が舞う密閉空間で従業員の方々の健康が気遣われました。

しかしその認識はこの後訪問するカンボジア結核予防会(CATA)、カンボジア国立結核センター(CENAT)等での活動説明を通し、改められることとなりました。この工場はカンボジアにおける結核予防の啓蒙活動の拠点となっていたのです。健康相談室の設置、看護師の常駐等、従業員の健康に関する無料相談体制を整えていることや複十字シール募金を活用して結核治療を行う1カ月間を有給にて休業させる等の施策を行っており、カンボジアがいかに結核対策を重視しているのかが伺われました。

—カンボジア保健大臣表敬—

工場を後にし、今回のメインとなる大臣表敬の為、保健省を訪れました。控室で待つこと10分程、マン・ブン・ヘン保健大臣(医師)自ら、大臣室へ迎え入れて頂きました。

まず、これまでの結核予防会の活動に対し謝辞を頂いた後、今回は日本のドキュメンタリー教育映画の製作会社の方々も同行しており、監督から今後のカンボジア政府の活動や方向性等について質疑応答がなされ



縫製工場訪問



保健大臣表敬



お寺での健診風景

ました。カンボジアに日本のような社会保障制度を組み込む思いも語られていましたが、まだ多くの課題があるのだと感じました。同時に一步一步前進するカンボジアの力強い変化も実感することが出来ました。その後、結核ゼロの想いを込めたポロシャツを300枚、ヘルスポランティアさん達のユニフォームとして寄贈しました。私たちの小さな活動がこれ程カンボジアでの結核対策に寄与出来ている喜びを実感し、保健省を後にしました。

—地域の結核健診—

14日、地方集落における結核の出張健診の現場（コミュニティDOTS）ピアレン州病院等を視察しました。ポンペン市内と打って変わって、高床式の家屋や、美しい蓮畑等の田園風景の中、舗装されていない道を進むと、集落の中心となる寺院で出張健診は行われていました。カンボジアでは、行政区分とは別に、医療郡（OD）の区分が存在しており、その区分に準じて医療行為がなされています。ODの下層保健所（HC）の区分で約10万人の方々を対応しており、その一つとして、今回の村があります。500人程の村に70人近くの結核疑いのある方々がおり、その5%近くに陽性反応が出ると聞き、カンボジアにおける結核予防支援により一層尽力しなければと、身が引き締まる思いと同時に、この現実を広く伝え、協力の輪を広げて行くことが私達の責務であると強く実感しています。

—カンボジア国立保健科学大学「医療診断センター」—

そして、15日カンボジア最終日、カンボジア国国立保健科学大学（UHS）に訪問し、結核予防会（JATA）とUHSの協同プロジェクト計画の説明を受けました。UHSは保健科学分野におけるカンボジア唯一の国立大学であり、現在学内にJATAと共同運営となる非営利保健施設「医療診断センター」を建築しており、これはカンボジアで初となるそうです。大学と連携することにより、学生の質の向上とカンボジア国内における医療検査の質の向上を同時に満たし、相乗効果の期待できる素晴らしい取り組みであると感じました。課題多い中、懸命に取り組んでいる結核予防会柳様を筆頭に、私たちの活動がその一助になればと切に願います。

—CATA婦人会との交流—

そしてCATA事務所を訪問し、活動説明を受けCATA婦人会との交流会後、複十字シール募金の一部1000ドルを贈り、お互いより一層活動に邁進する事を誓い事務所を後にしました。

最後に、旅中、トゥールスレン博物館に立ち寄りました。ポルポト政権の下では医師等の知識層が多く犠牲になったと聞きます。現在のカンボジアの状況は間違いなく、このポルポト時代の負の遺産です。ただ、日本のみならず多くの中国企業、カンボジアで知り合った青年実業家達、今まさに成長していこうというカンボジアの熱を貰いながら、更なる活動を誓い帰国の途につきました。

今回木下幸子会長のお誘いで、一般として参加させていただき、たくさんの学びと婦人会の皆様との交流を体験し、今後微力ながら皆様の活動を応援させていただきたいと強く感じております。ありがとうございました。

株式会社 ケイ・アール・ジー 小川 慶（記）



保健科学大学のバッジをいただきました



保健科学大学での勉強風景



CATAに寄附金を贈呈しました

会長就任ご挨拶

京都府結核予防婦人会（京都府連合婦人会）
会長 田野 照子



この度、中畔都舎子会長の後を引き継ぎ会長という重責を担うことになり、更なる学習を深め多くの人に理解していただく活動の輪を広げたいと心新たにしております。思い起こせば当時の中畔会長より御

殿場で結核予防講習会を受けるように言われ、私はその講習会が結核について理解を深める始まりでした。その後中央講習会、結核予防全国大会、近畿ブロック幹部講習会と参加させていただき、多くのことを学ぶことができました。結核は過去の病気ではない、今なお新たな患者が2万人近くそのうち4割が高齢者であること、また日本は欧米先進国に比べ罹患率が高く中蔓延国だということは

理解しています。複十字シール運動も、結核に関する正しい知識の普及啓発に努め、募金活動の理解を深めるための活動を推進しています。

当団体では高齢者団体と一緒に結核についての講演会等を開催し、結核について理解してもらおうよう努めています。結核のない世界が来る日を目指し、今まで以上の活動充実に努めたいと思っています。🐼

ストップ結核 パートナーシップ・イタリアの活動について

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

昨年11月、イタリアで結核の知識を普及する活動をおこなう団体であるストップ結核パートナーシップ・イタリアで中心的に活動されているダニエラ・チリッコ博士が来日されました。博士は、日本に滞在していらっしゃる間に、結核予防会本部をご訪問されたほか、東京都の新宿区役所での結核審査会をご見学されたと伺いました。

チリッコ博士と私は、半年ぶりの再会でした。昨年5月にイタリアを訪問したときに、ストップ結核パートナーシップ・イタリアのベッソー代表とご一緒にお目にかかっておりましたので、またお会いできたことを嬉しく思いました。

ストップ結核 パートナーシップ・イタリア

ストップ結核パートナーシップ・イタリアは、結核に関わる呼吸器学、微生物学、伝染病学の専門家らによって2004年に設立されました。そして、世界保健機関（WHO）の協力機関やイタリア各地の病院などで結核に関わる仕事をする人々が集まり、イタリアの国民に対して結核についての知識を広めて、結核対策の重要性についての理解を深める活動をおこなっています。

WHOによれば、イタリアの結核罹患率は、人口10万に対して5.1（2014年）です。日本の罹患率は人口10万に対して14.4（2015年）ですから、イタリアの罹患率は日本の約3分の1です。

イタリアでは、医師が結核患者を診察する機会が少なくなり、診

断の遅れが問題になっていると伺いました。また、若い医師は結核患者を診た経験がない人が多く、結核を診療した経験のある医師は退職しつつあるようです。この他に、結核患者に外国生まれの人が相当数含まれることや、多剤耐性結核の問題があることについてのお話も伺いました。

このような中で、時折、若い結核患者が出ると、報道に高い関心が寄せられるようですが、一般には結核への関心が低い状況にあります。そこで、結核を恐れるのではなく、患者を早期に発見し、診断、治療することが重要であることを人々に伝える努力がおこなわれています。医療機関と一般の人々との両方に対して、結核の知識を普及することが必要だと考えていらっしゃいます。

イタリアでの知識普及活動

ストップ結核パートナーシップ・イタリアは、結核に関する知識の普及などのために、様々な活動をおこなっています。

例えば、高校の授業で結核について教えているとのことで、教材をいくつか拝見する機会を得ました。結核の診断や治療の歴史、結核と芸術家との関わりなど、興味深い内容でした。

授業では、結核は治療すれば完治する病気であり恐れる必要はないことや、結核に罹った時の症状や感染の有無の検査などについて解説するとのことでした。

ストップ結核イタリアの医師、フリツェッラ博士が高校の授業のために作成された資料をいただきました。この中から、2枚の資料をご紹介します。

図1は、BCGについてのスラ



図1 BCGについて

イドです。BCGの文字の下に「結核を予防」と書かれています。

図2は、結核にかかった女性が描かれた作品『椿姫』についてのスライドです。小説の作者デュマと、それをもとにオペラを作曲した音楽家ヴェルディが紹介されています。



図2 『椿姫』について

イタリアでは、結核罹患率が低いために、乳幼児へのBCGワクチンの接種がおこなわれています。そのため、結核の集団感染が起きた場合など、感染の拡大やパニックを防ぐために、関係者が人々へ適切な情報を迅速に提供す

るように努力していると話されていました。必要に応じて、小中学生にも、学校で結核の感染や治療について教え、保護者へさらに詳しい説明を提供するプログラムがあるそうです。

3月24日の世界結核デーに合わせて、結核をテーマとする写真コンテストや、美術学校の学生が制作した作品の展示、結核に縁のある作曲家による音楽のコンサートや舞台の上演などがおこなわれています。そこでは、参加者がそれぞれ結核について何かを語り、結核予防への意識を高めるように働きかけていきます。単なる言葉による説明では人々の頭に残りにくいので、視覚的に訴える作品や音楽などによって、受け手により深く伝わりやすくする工夫をされるようです。子どもや若者に対しては、サッカー選手に協力してもらったり、漫画の冊子を作って配布したりしたとお聞きしました。

また、クリスマスの時期などには、テレビ局でチャリティー番組

が放送されています。寄付金を募る際には、寄付金が具体的にどのように結核対策の研究や活動に役立つのかを人々に知ってもらうように工夫しているとのことでした。

イタリア国外での活動

ストップ結核パートナーシップ・イタリアは、国外の活動にも力を入れています。アフリカのセネガルでは、地元の婦人の力を活かしたプロジェクトがおこなわれました。婦人たちは数週間の訓練を受け、地域の結核の感染が疑わしい人を見つけ、結核の検査を受けるように説得します。こうして、結核予防活動の後押しをするとともに、女性の力を高める効果も期待していると伺いました。

数々の貴重なお話をうかがうことができましたことを、ありがとうございました。



平成28年度地区別結核予防婦人団体 幹部研修会（5地区）開催

北海道地区

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 芳子



平成28年度地区別講習会は、7月1日～2日国立大雪青少年交流の家に於いて、北海道内各地から70名が参加して開催され

ました。

研修テーマ「肺を大事にして長生きしましょう、目からウロコのCOPDの話」旭川北医院長松崎道幸先生、「ロコモ予防体操」札幌がん検診センター市川浩巳先生、「内科のがん」釧路がん検診センター松浦邦彦先生、3件の講話はデータに基づく貴重な内容と、実践、COPDについては肺年齢測定の実験も含まれ、充実したカリキュラムでした。

参加者全体交流会では、乳がん体験者の闘病生活を地域の方々の理解と協力、家族の愛にささえられた「がん」との生活を送る貴重



北海道家族の健康をまもる講習会



な体験談と、食生活改善推進委員のリードによりワークショップによる減塩と生活習慣病予防等について学習しました。

ラベンダーの花咲く北海道の素晴らしい自然と季節の中で、研修会が継続して開催されて来た事に感謝致します。

東北地区

福島県健康を守る婦人連盟
会長 内堀 栄子



平成28年11月17日、晩秋の紅葉がひとときわ美しさを増す中、福島市の飯坂温泉において、東北6県から約120名が参加し盛大に開催されました。

研修会では、まず「検診受診率アップのために、いま私たちができること」をテーマにシンポジウムが開かれました。各県の特徴を生かした事例報告があり、地域における受診勧奨が健康づくりに大きな意味を持つことを改めて実感いたしました。

続いて、結核研究所名誉所長の森亨先生より、「ワクチンで子どもを守ろう～BCG接種～」と題してご講演いただき、未来ある子どもたちへのBCG接種を広く呼びかけていきたいと思いました。

また、特別講演では、「笑顔で元気！ 笑い与健康～笑ってストレス解消！生活習慣病予防！～」と題し、福島県立医科大学の大平哲也先生よりご講演いただきました。笑いが病気や健康にもたらす影響について、実際に笑いヨガを体験しながら学習いたしました。終始、会場は笑いに満ちあふれ、参加者からも大変好評でした。

そして、夜の懇親会は、地元飯坂太鼓の見事な演奏で幕開けし、

各県からの出し物もあり、東北がひとつになった会でありました。

この研修会で学んだことは、さっそく家族や地域の友人に伝え、健康長寿の実現にむけて健康づくりを実践していけるよう、今後とも努めてまいります。



東海北陸地区

岐阜県結核予防婦人部連合会
会長 竹中 昌子



紅葉の美しい時期にこの大会が開催できましたことを、たいへん嬉しく思いました。金華山にそびえる岐阜城を仰ぎ、ゆったりと流れる長良川を見下ろす会場。雲ひとつない青空のすばらしい眺めだったのです。

「BCG接種と結核の現状」と題して森亨先生の講演は私たちの常識を超え、あらためて結核について正しい知識を得た気持ちです。長びく咳は赤信号、子供の結核はすぐ発病する、しかし減り方はスローである、集団感染する恐ろしさ、中でも早すぎる医療行政の低下、今後も接種率の確保、そして接種技術の向上を計る等、まだまだ油断してはならないと願われました。

結核は薬で治る時代を迎えています。しかし薬を最後までのみ続けることがとても大切です。のみ始めると2週間くらいで症状がなくなり、薬をのまなくなるのです。そこで保健所は見守り、励まして毎日見届けているのです。地域の中で活動している私たちです。理解し見守る支援者を求められていることを小林典子先生のお話から強く感じました。

交流会ではシャンソンを聞いて、グループごとにワークショップで語り合い、自己紹介で話もはずみ、とてもなごやかな楽しい時間でした。

翌日も風もなく青い空、早朝よりバスで美濃和紙の里へ移動、そして文化遺産の指定を受けた美濃和紙づくりの体験。自分ですいた和紙は1時間余で出来上がり、おみやげとなりました。岐阜駅までお送りし別れを惜しみました。せっかく岐阜へ来たのだからゆっくり車窓を眺めながら帰ると話される富山県の方。4時間もかかる高山線で……。おどろきとちょっ

と嬉しい気持ちになりました。私たちは研修を深めながら明るい社会を作る努力を、複十字シール運動をがんばってまいります。



を受講しました。◎結核はまず正しい情報を知ること、◎早期発見（風邪の症状からが多い）、◎複十字シール運動のグループ討議では活発に継続した取り組み状況の発表があり、参考になりお互いに頑張ろうとの思いでした。当結核予防婦人団体の設立のきっかけは昭和25年長野県の小学校で集団感染が発生し母親達が立ち上がり出来た組織だと知り納得です。私達は更なる使命を感じ活動の充実に努めたいと思います。



近畿地区

京都府結核予防婦人会
会長 田野 照子



平成28年度の当番地として京都府において、近畿地区の結核予防婦人団体の幹部を対象とし、結核の現状、複十字シール運動の取り組み等、結核予防に関する知識の向上と普及啓発について講習会を開催しました。

平成28年10月11日、12日に近畿府県の関係幹部100名が参加しました。

- 1日目 講演
「結核と複十字シール運動」
グループ討議
「婦人会と複十字シール運動」
- 2日目 講演
「昨今の結核の状況について」
「ワクチンで子どもを守ろう」
「こころと身体とクリエイション」

九州地区

沖縄県結核予防婦人連絡協議会
会長 平良 菊



平成28年11月15日・16日、パシフィックホテルにて第48回九州地区結核予防講習会を開催、九州各県から220名余が参加し、沖縄の短い秋日和の中での講習会でした。

結核予防の知識の向上と地域活動の推進及び九州地区関係団体との緊密な連携をめざす講習会で、講演やシンポジウム（地域に根を張る離島活動の事例と国際貢献の視察報告）、健康づくり運動の実技などで2日間和やかな会場風景でした。

懇親会は、全体での踊りと各県会長はじめ来賓席の方全員が舞台

に出て歌った「年金時代」の賛歌で大いに盛り上がり、いつもの九州は一つを全員が共有しました。

今回、長年気にかけていた講習会に参加できない方や離島の方に学習の機会ができたことと、参加者に“すこやかに”の冊子を配り、複十字シールの歴史や意義、活動内容を伝えることができたことが大きな収穫だったと思います。



複十字シールキャンペーン活動報告

宮婦連健康を守る母の会
会長 大友 富子



平成28年8月1日の複十字シール運動開始日の直前、7月29日宮城県結核予防会の方々と総勢10人で宮城県知事を訪問

しました。当日は山田副知事が対応くださり、平成26年度は結核の統計開始後初めて2万人を下回った事を報告、それでも19,615人の患者さんがおられることに驚いておられました。また、昨年、三浦前副知事から県内の高等学校にも「複十字シール運動の募金をお願いしては」というご助言を頂き、結核予防会の方が、全ての高校を訪問、結核の現状と募金への協力をお願いした結果、募金の実績が大きく伸びたことなどもご報告しました。

一般の方への複十字シール募金キャンペーンは、9月24日例年通り仙台駅交番前で実施。今年はA4クリアケースの中に咳エチケットマスク、もっと知ろうよ結核のこと！などのリーフレットを入れて早速配布。テントの中では、2年目となる無料肺年齢測定会も併せて実施。しかし、なかなかキャンペーン資料を受け取ってもらえず、皆苦闘気味。いまや、結核はもう過去の病と思われてい

るのかもしれませんが。だから、少しでもわかってもらえるよう毎年のキャンペーンが必要なのだと、再認識。時間の許す限り子ども連れのお母さんに、高校生の皆様にとお渡しした秋の午後でした。



栃木県結核予防婦人連絡協議会
(栃木県地域婦人連絡協議会)
副会長 榎沢 澄江



平成28年8月5日(金)の9時30分から15分間、結核予防会栃木県支部と栃木県結核予防婦人連絡協議会合同で、平成28年

度複十字シール運動開始にあたっての知事表敬訪問を行いました。結核はまだ過去の病気ではなく、高齢化社会の進展に伴う高齢患者に対する早期発見への啓発強化や結核まん延国、特にアジアからの外国人流入の増加に伴う結核対策が重要であることを訴えるとともに、罹患数の減少等による関心の低下や、それに伴う募金額減少の歯止めと複十字シール運動の更なる拡充を行うことを伝えて協力を仰ぎ、県知事からは、「運動を盛り上げ、早期発見、早期治療につなげましょう」とコメントをいただきました。

また、平成28年度栃木県複十字シール運動街頭キャンペーンを、平成28年9月17日(土)の10時30分から14時30分の間、ショッピングモールベルモール2階スカイブリッジ広場で行いました。主催は栃木県結核予防婦人連絡協議会(栃木県地域婦人連絡協議会)・結核予防会栃木県支部(公益財団法人栃木県保健衛生事業団)で、参加者は各10名、13名の計23名で、栃木県の後援により行われました。結核予防広報資材1,000セット(内容はリーフレット、複十字小型シール、シールぼうやボールペン、募金案内、募金振込用紙)とシールぼうや風船を配布し、バルーンアートが行われました。結核予防に関するパネル10枚を展示して普及啓発し、「結核をなくそう」、「複十字

シール運動」、「受けよう！健康診断」計9台ののぼりを設置して募金を呼びかけ、13,627円ご協力いただきました。



**福井県健康を守る女性の会
会長 宇野 千代子**



秋風が心地よく感じられる季節となり、結核予防週間が始まる9月23日各地の会長が揃いのTシャツで知事表敬訪問を行いました。知事さんは議会に出ておられ、健康福祉部長さんとお会いし、表敬訪問の趣旨を話し、明日から各地域でキャンペーンを行う事などを役員一人一人が話し、ご協力をお願いしました。熱心に話を聞いて下さり、出来る限り協力します、頑張ってくださいと励まして下さいました。

早速、各地域で活動が始まりました。私も地域のイベントにおいて会員の協力で揃いのTシャツ姿で資料を持ち、一人一人と笑顔で話し合い、今なお結核で悩む人も多く人ごとではなく、健康で明るい生活をするためにもと協力をお願いしました。長年の顔見知りで

温かい会話の中で、募金箱へ「頑張ってるね」と励まして下さり、会員同士募金箱を前に多くの方と話ができ、皆さんの真心に感謝し、「よかったね。ご苦労様」と笑顔を交わし、これからも「健康福井」を目指して続けて行こうと話していました。



宇野千代子様は2月2日に逝去されました。本稿はご遺稿となりました。謹んでお悔やみ申し上げます。
編集部

**島根県連合婦人会
会長 田儀 セツ子**



全国一斉に行われる複十字シール運動開始に合わせ、平成28年9月1日に公益財団法人島根県環境保健公社とともに、婦人会正副会長で島根県知事を表敬訪問いたしました。

私たち婦人会の中でも大切な活動としているこの複十字シール運動の知事表敬訪問は恒例となっており、シール・封筒と、ポスター・リーフレットなど普及啓発グッズをお渡しし、複十字シール運動についてのご理解とご協力をお願いし、お話しさせていただきました。

環境保健公社職員の方から、県内の結核患者発生状況について説明がありました。和みの中でポスターは県庁掲示板へ、またこの婦人会活動は県のホームページに掲載しましょうとお約束いただきました。

国民病と恐れられた結核も完治できる病となりましたが、会員一人ひとりの募金によって結核予防普及の種をまき、大切な尊い命を救える活動とし、複十字シール運動を継続して進めていく意味を理解し、大きく輪を広げてまいりたいと思います。

**健康を守る佐賀県婦人の会
会長 三苫 紀美子**



「結核は昔の病気でしょう！」と多くの人から返ってくる言葉を聞く度に、私たちの活動の必要性を強く感じて何とかしな

くてはと心が焦っていました。複十字シール運動の知事表敬訪問を機に、県庁職員の方を始め、各市町を表敬訪問し、官民一体となつての活動と協力をお願いしようと理事会で話し合い、平成28年度実施することとしました。

全国一斉複十字シール運動では、大手スーパー2ヶ所で結核予防会の方と一緒に説明をしながらの声かけにより、効果を肌で感じることができました。県内各校区で、イベント時に地域に合ったキャンペーンを積極的にしていただき、例年になく啓発活動の展開を見ることができました。これまで枚数を割り当て、会費から募金する仕組みの印象が強かったのを払拭し、複十字シール運動の輪が広がったことを心強く思っています。私たちにできる啓発活動にこれからもしっかり力を注いで参りたいと決意を新たにしています。



被災地支援「心の絆プロジェクト2016」レポート

2011年7月に立ち上がった「心の絆プロジェクト」は2016年に6年目を迎え、当協議会事務局から結核予防会と共にボランティアスタッフとして参加しました。

「心の絆プロジェクト2016」は、岩手県、宮城県の2県・2カ所で行われました。

それぞれ午後から開催され、午前中に近隣を訪問して開催をお知らせしました。

開始とともに参加者が来場され、会場のステージ上ではリズム体操、エイサー演舞、和太鼓などのアトラクションが行われ、フロアでは、ビューティーケア、子供向けワークショップ、健康チェックが行われ、皆さんそれぞれ楽しい時間をすごされました。健康

チェックは、「血圧・体脂肪測定」、「骨密度測定」、「お薬相談」、「歯科相談」、そして当協議会と結核予防会担当の「肺年齢測定」の5グループにより進められました。

当協議会事業の「COPD対策事業への取り組み」には、第二次健康日本21の目標「80%の認知率」達成（2022年までに）への協力があり、肺年齢測定はそのための有効な活動です。日時、場所、参加人数は次のとおりでした。

■11月12日（土）「健康相談会」：
岩手県宮古市田老地区 田老公民館
来場者49名、肺年齢測定参加者26名

■11月27日（日）「健康フェア」：
宮城県気仙沼市 気仙沼市民健

康管理センターすこやか
来場者272名、肺年齢測定参加者63名

震災後5年が経過して復興が進んでいますが、いまだ道半ばで、被災された方々の住まい、物資、医療面での状況は決して十分とは言えません。また、COPD認知率の2016年統計は25%と発表され、目標の80%には残念ながら遠く及ばない現状です。こうした中でプロジェクトに参加したボランティアメンバーの活動はささやかではありますが、「なによりも大切なのは続けること」と強く感じ、今後につなげていきたいと意を新たにしました。



宮古市田老地区：検査器具に思い切り息を吹き込んで肺年齢をチェック。家族で肺の“若さ”を比べ合う参加者も



気仙沼市：「息を吸って、吸って……、はいて！」。山下事務局長が測定方法を解説

イラスト・カット募集

平成29年7月号（健康の輪No.120）に掲載するイラスト・カットを募集致します。
花・動物・その他、何でも結構です。
締切は、平成29年5月9日（当会必着）です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL：03-3292-9288



編集後記

本誌で紹介された行事「カンボジア結核対策スタディツアー2016」と「心の絆プロジェクト2016」の田老地区に参加しました。こうして冊子が発行され、記事が掲載されると活動への愛着が深まります。読者のお一人お一人が同じように感じていただけるように、編集に携っていきたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

(三) 🐻

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



製造記号の読み方 西暦 月 製造回数 2017年 4月 1回目



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC 医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。